





美作國山崎の北野に蓮二層の  
四王ふくく大なる寺は山氣に其  
まはれを深しおとせし  
ふし一石東に石十りありて白  
公習ふより北野に田より其  
はけけは鑑塔に傍しけりふ  
園あり石を磨き梅を仏と号す  
長母の寺に父を祀りて江守  
田に風を記すをあらわす  
しつらなくわたりしなり



美作國山崎にありて梅を伴

三茶



井井内一やこころは何とぞ  
巨の事今こころ梅も甲斐  
らん事とぞとぞとぞとぞ

喜面をゆりくも旅を垣うぬ 全

梅必仏の町さるらりる古き坊の  
古境は清く

念中よや昔はうてふも一とら後 全

中よ此に廿一字の草居あり  
里人よらわらわらとぞん猶も  
とく蓮二層の白くいと誠後

言一梅一ゆりく一今ハ新瑞も  
物ゆりて壁もあつた昔のく  
申く之ふもを白ものよある一  
次とゆはくはくはく一ま  
下ゆありや案あるはる難く  
去案旅の梅をゆりくハハハハ  
伴くともたのひあはれとく

かみく梅も吹きり唐杜姫 全

各道場ゆくのやと

さるる梅ゆくむ梅の 江戸  
其白く



新しき書よきしきり梅の月

東洲

雪もすく方ふあけ梅子仲

馬中

題文星觀

杉嵐竹

その名ともも此文よきりて也  
風雅と梅文星よ題と  
月のふれもあつた  
争此よりあつた

三葉子官遊のちうん  
梅必仙のたさあやま  
をけりて其余徳と義  
けし懐四も情公ま  
とりの厚志と

感歎——

書よにりあ道也

半山下

楚塚

けりて梅れ氣

美倍  
梅治様



